

# 音声言語・手話言語のアーカイブ化の未来

主催：日本学術会議 言語・文学委員会 科学と日本語分科会  
共催：日本女子大学文学部・大学院文学研究科

平成29年6月10日（土） 14：00 ～ 17：00

日本女子大学 目白キャンパス (東京都文京区目白台2-8-1)

しんせんざんかん

新泉山館 大会議室

※予約不要、手話通訳あり

## 14：00 音声言語の多様性、その保存・活用

木部 暢子  
(国立国語研究所 教授、  
日本学術会議第1部会員)

音声言語（方言などの話し言葉）や手話言語などの自然言語は、多様性をもつ。

この多様な音声言語と手話言語を、万人が共有できるデータベースの形に残し、保存・継承していくための「アーカイブ」を構築する必要性が高まっている。

本シンポジウムでは、言語研究のさまざまな立場から、自然言語のデータベース化の方法、その社会的意義、学術的価値などについて多角的に検討する。

## 14：30 音声言語と手話言語をつなぐもの

菊澤 律子  
(国立民族学博物館・  
総合研究大学院大学 准教授)

## 15：00 自然言語の多様性とは

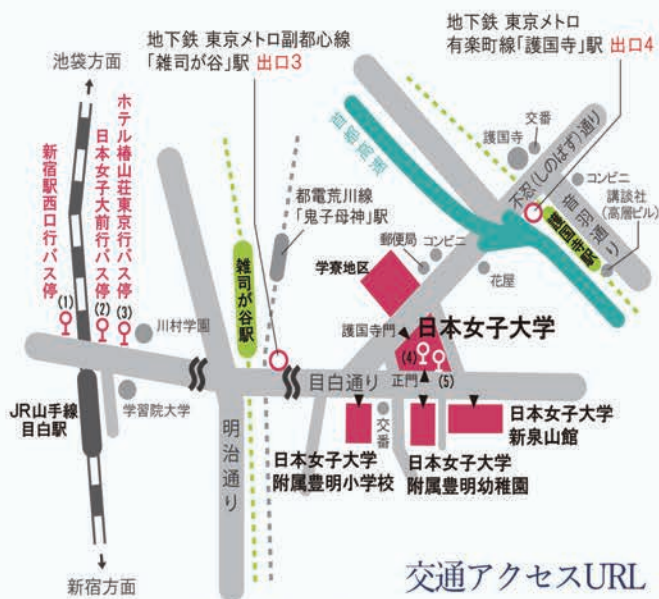
酒井 邦嘉  
(東京大学大学院総合文化研究科 教授、  
日本学術会議連携会員)

## 15：30 コーパスを用いた手話相互行為分析

坊農 真弓  
(国立情報学研究所・  
総合研究大学院大学 准教授)  
大杉 豊  
(筑波技術大学・  
障害者高等教育研究支援センター 教授)

## 16：00～16：10 休憩

## 16：10～17：00 総合討論



交通アクセスURL  
<http://www.jwu.ac.jp/unv/access.html>

コメンテーター： 清水 康行  
(日本女子大学文学部日本文学科・同大学院文学研究科 教授)

ディスカッサント・総合司会：松森 晶子  
(日本女子大学文学部英文学科・同大学院文学研究科 教授、日本学術会議連携会員)